

## ふちゅう東西南北

# 境界線廻り

～ 西府町、日新町、四谷 ～

府中市の西側には入り組んだ境界線があります。  
今回はその凸凹を訪ねて、国立市との境を歩いてみました。



### 《西府町 5丁目》

西府橋バス停で下車、府中市と国立市の境を歩く。電柱の住所表示を頼りに進んだが、思いのほか入り組んでいた。「国立市谷保」の住所の下に「府中市通学路」と表示した電柱もある。出会った人から「飛び地があるよ」と聞いて興味津々、行ってみると、運よく飛び地に住んでいる方と話すことができた。その3軒だけが府中市で、軒を接する両隣は国立市ということだ。特別不便は感じていないそうだが、なぜこうなったのか不思議な感じがした。こうした飛び地は周りにも2軒確認できた。

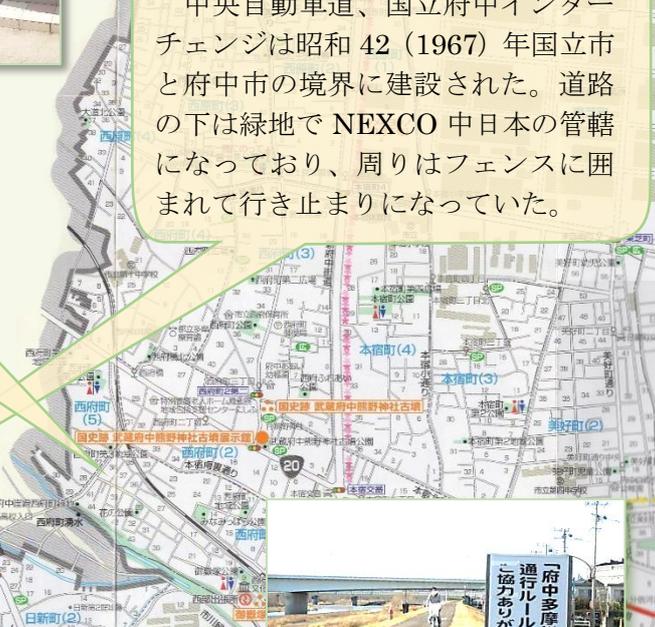


大山道の坂道を下ると、上坂橋のかかる市川用水に出る。さらに進むと大山橋、その下には府中用水が流れている。その昔このあたりは田園地帯で、農業のために用水を作ったのだが、生活用水としても使われていたらしい。市川用水をたどっていくと、西府湧水に出た。そこには清らかな水が湧いていて、用水に流れこんでいる。

### 《日新町 4丁目・5丁目》

野猿街道を渡って、府中西高校バス停まで歩く。府中市で一番西にある都立府中西高校は、昭和 51 (1976) 年に開校。全国高校合唱コンクールで何度も金賞に輝いている。

中央自動車道、国立府中インターチェンジは昭和 42 (1967) 年国立市と府中市の境界に建設された。道路の下は緑地で NEXCO 中日本の管轄になっており、周りはフェンスに囲まれて行き止まりになっていた。



### 《四谷 6丁目》

中河原駅から四谷 6丁目までバスで行った。昔「三屋 (さんや)」と呼ばれていた地域に「上之島神社」がある。境内の由来碑によると、三屋は現在の四谷 6丁目に集落の中心があった村で、日野のほうから土方氏一族が移り住み開いたのだという。地名の三屋は「散家 (さんや)」が転じたもの。上之島神社は多摩川の洪水で鎮座地の森が流されたため、村人がここに遷座したようだ。

ここからは多摩川が近い。堤防に行ってみると「府中リサイクルプラザ」がすぐ目の前に見えた。ここは資源ごみと粗大ごみを中間処理している施設で、再利用できるものは修理し、特定のリサイクルショップで販売されている。多摩川の堤防には、多摩川かぜのみちが整備されて、気持ちの良い景色が見渡せる。市民に人気のスポットだ。ここに府中市と国立市の境界線を示す立て看板と、「府中多摩川かぜのみち」の通行ルールはここからです。」のお知らせがあり、境界線としていちばん分かりやすい場所だった。(記：田井美和子)



**編集後記** 生涯学習センターの指定管理者はこれまでの事業者の続投に決まりました。当誌「生涯学習だより」を編集する我々学習情報グループも、新年度を迎え気持ちを一新して、市民の皆さんの情報誌としてお役に立てるよう取材・編集・発行してまいります。ご愛読のほどお願いいたします。ご意見、投稿は大歓迎です！(鈴木禎治)

**企画・編集**：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」  
**共同発行**：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課  
ふちゅう生涯学習センター共同事業体  
**府中市生涯学習センター**

〒183-0001 府中市浅間町1-7 Tel 042-336-5700  
ホームページ：<http://fuchu.shogaigakushu.jp/>